小学校第６学年

国語　A

注　意

１　先生の合図があるまで、中を開かないでください。

２　調査問題には、国語と算数の問題があります。国語の問題は１ページから10ページまであります。算数の問題は反対側の表紙から始まり、１ページから11ページまであります。

３　解答用紙には、国語の解答らんの面と算数の解答らんの面があります。解答は、すべて解答用紙に書きましょう。

４　解答は、ＨＢまたはＢの黒えん筆（シャープペンシルも可）を使い、こく、はっきりと書きましょう。また、消すときは消しゴムできれいに消しましょう。

５　解答時間は、次のとおりです。

・国語Ａ　20分間

・算数Ａ　20分間

※それぞれの時間になったら、合図があります。

※国語の問題を解き終わっても、算数の問題に進んではいけません。

※解答が早く終わったら、よく見直しましょう。

６　つくえの上の「個人番号票【解答用紙記入用】」をよく見て、解答用紙に、学校名、組、出席番号、男女、個人番号をまちがいのないように書きましょう。

問題は、次のページから始まります。

1

一　次の(1)から(3)までの文の――部の漢字の読みをひらがなで書きましょう。

(1)　駅は　混雑　している。

(2)　春から夏へ季節が　移　る。

(3)　めずらしい植物を　採集　する。

二　次の(1)から(3)までの文の　――　部のひらがなを漢字でていねいに書きましょう。

(1)　びょういん　に行く。

(2)　人の意見に　さんせい　する。

(3)　重い石を　はこ　ぶ。

2

次の**1**と**2**の言葉を、例のように、ローマ字でていねいに書きましょう。また、**3**のローマ字の読みをひらがなで書きましょう。

（例）〔 い ぬ 〕 ⇨ inu

1 〔 くすり 〕 ⇨ ＿＿＿＿＿＿

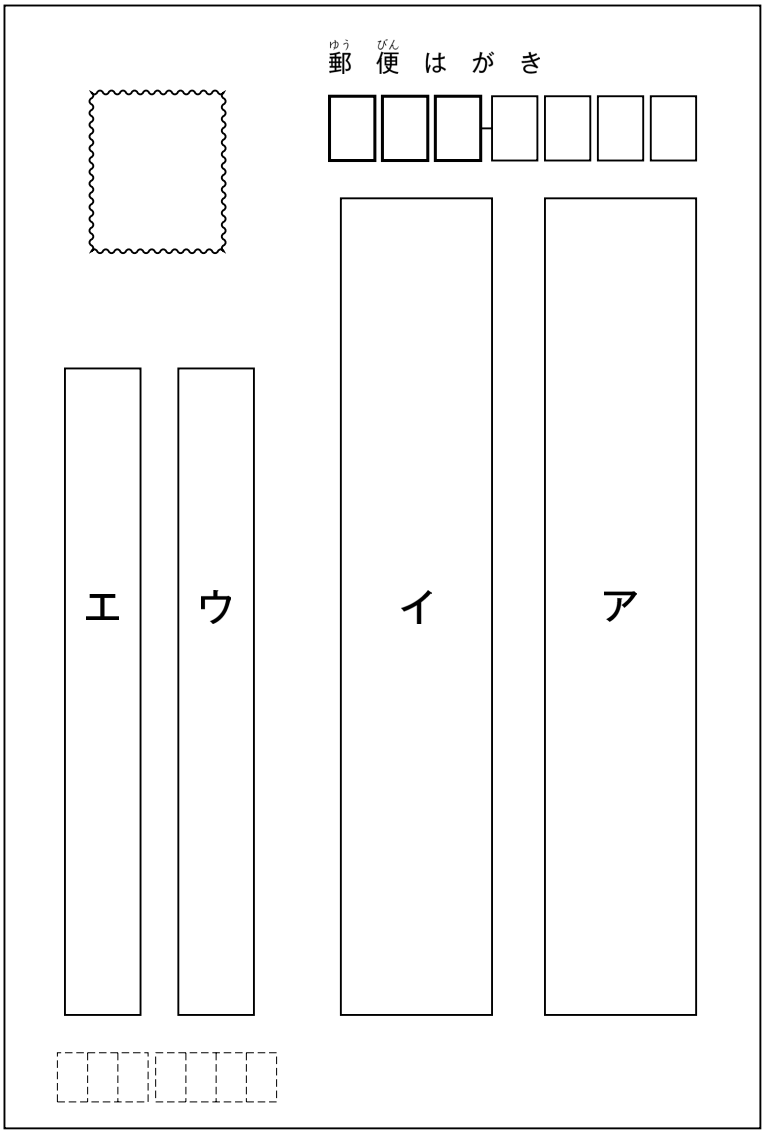
2 〔たべもの〕 ⇨ ＿＿＿＿＿＿

3 happa ⇨ 〔　　〕

※解答は，解答用紙に書きましょう。

3

小林さんは、転校していった友だちにはがきを書くことにしました。はがきの表に名前や住所を書きます。次の［ア］・［イ］・［ウ］・［エ］の中に入るふさわしいものを、下の**1**から**4**までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。



1 自分の名前

2 相手の名前

3 自分の住所

4 相手の住所

4

南田さんは、水にとかした食塩の重さについて実験をし、報告文を書きました。報告文の **ア** ・ **イ** ・ **ウ** の中に小見出しを書きます。小見出しとしてもっともふさわしいものを下の**1**から**3**までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

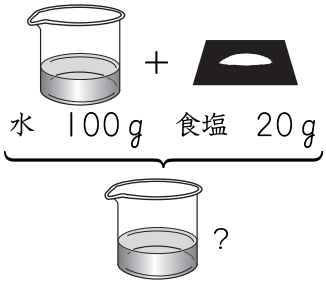
【実験報告文の一部】

(1) **調べたこと**

水にとかした食塩の重さはどうなるかを調べた。

(2) **ア**

① 水 100 g をはかりとる。
② 食塩 20 g をはかりとる。
③ 食塩 20 g を 水 100 g に入れてとかし，できた食塩水の重さをはかる。



(3) **イ**

食塩は，水にとけると重さがなくなると思うので，食塩水全体の重さは，100 g になるのではないか。

(4) **ウ**

とかす前の重さ	
水	100 g
食塩	20 g
全体の重さ	120 g

とかした後の重さ
食塩水全体の重さ 120 g

食塩を水にとかす前の全体の重さと，食塩を水にとかした後の食塩水全体の重さは，どちらも 120 g だった。

(5) **考えたこと**

食塩は，水にとけてもその重さはなくならないと考えた。

ア	**1** 目的	**2** 注意	**3** 方法
イ	**1** 準備	**2** 予想	**3** 条件
ウ	**1** 評価	**2** 結果	**3** 想像

5

次は、お菓子をつくっている美奈を主人公にして書かれた物語の一部です。文章の表現のくふうについて説明したものとして、もっともふさわしいものをあとの**1**から**4**までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

（柏葉幸子『大おばさんの不思議なレシピ』による。）

【表現のくふう】

1 美奈と友だちとの関係が分かるように、それぞれの性格や考え方を書いている。

2 美奈が体験したことを、ほかの登場人物に対して語りかけるように書いている。

3 美奈が取り組んだお菓子づくりのことを、つくった順序のとおりに書いている。

4 美奈がお菓子をつくるたびに失敗してしまう様子を、たとえを使って書いている。

6

戸山さんは、植物が仲間を増やすための種子の移動について図鑑で調べ、メモに取りました。【メモ】の **ア** の中に入るふさわしい内容を【図鑑の一部】の中の言葉を使って書きましょう。

【図鑑の一部】

（ガリレオ工房『びっくりふしぎ　写真で科学④　素顔』による。）

（ガリレオ工房『びっくりふしぎ　写真で科学④　植物の素顔』による。）

※「錨」…船をとめておくために，水中にしずめておく鉄のおもり。

【メモ】

〈種子の移動によって仲間を増やす方法〉

○　**一つめの方法**

綿毛のかさがとらえる風によって種子を遠くへはこんでいく方法

○　**二つめの方法**

うれてあまくなった果物を **ア** 方法

7 次は、谷川さんの学級で、地域（ちいき）の人たちとの交流会で行う劇（げき）の内容について話し合った様子の一部です。――――部は、司会者の進め方の良いところです。どのようなところが良いか説明しましょう。

【話し合いの様子の一部】

～（劇の内容について話し合っている）～

谷川　はい。ぼくたちの町に伝わる昔話がいいと思います。町に伝わる昔話なら、地域のみなさんもぼくたちも楽しめると思うからです。

～（同じような意見が続く）～

花田　わたしは、登場人物の多い話がいいと思います。みんなが登場して、地域のみなさんに顔を覚えてもらいたいからです。

～（同じような意見が続く）～

司会　今、出されている案は、「町に伝わる昔話」と「登場人物の多い話」です。そのほかにはありませんか。（しばらく時間をおく）なければ、**この二つの案のどちらにも合う題材を決めるということで、話し合いを進めてもいいですか。**

全員　いいです。

～（話し合いが続く）～

8

六年生の高島さんは、五年生のときから入っている放送委員会のことを文章に書きました。読み直した後、③の文について、「だから」を使って二つの文に分けて書き直すことにしました。「だから」を使って二つの文に分けたときの前の文の終わりの七文字と後の文の始めの七文字を書きましょう。

【文章の一部】

①放送委員会の役員を決める話し合いをした。②ぼくは、委員長を任されることになった。③新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

※解答は、解答用紙に書きましょう。

□。だから、□

9 次は、本間さんが毛筆で書いた下書きです。これを、「**ア　文字の大きさ**」、「**イ　文字と文字の間**」、「**ウ　文字と行の中心**」の三つの点から見直して清書をします。**ウ**については、どのように書き直しますか。あとの［　　］の中に入るふさわしい内容を**ア**と**イ**の書き方と同じように書きましょう。

【下書き】

※ ------ は、行の中心を表しています。

ア　文字の大きさ

「を」、「ろ」、「う」が漢字と同じくらいの大きさになっているから、漢字より少し小さくする。

イ　文字と文字の間

「時」と「間」との間があきすぎているから、ほかの文字と文字との間と同じようにする。

ウ　文字と行の中心

［　　］から、行の中心に合わせるようにする。

※解答は、解答用紙に書きましょう。

これで、国語Ａの問題は終わりです。

注　意

合図があるまで、次のページを開かないでください。